

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		914	t-CO ₂
（温室効果ガス換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		914

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
温室効果ガス総排出量	3,046	t-CO ₂	2,985	t-CO ₂	1,908	t-CO ₂	914	t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対基準年度）			2.0	%	37.3	%	70.0	%		%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対基準年度）						%		%		%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
原単位あたりの排出量										
削減率（対基準年度）				%		%		%		%
原単位あたりのみなし排出量										
削減率（対基準年度）						%		%		%

(2) 進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

2016年11月に現社屋に移転し、機器の新規導入で大幅にエネルギー削減を実現。また、2022年10月より中部電力のCO2フリー電力を導入しており、CO2排出量の大幅な削減をした。

- 備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。
- 備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省資源・省エネルギー活動の推進など（照明など）	①使用していない部屋の消灯の徹底、必要な照度を確保しうる最小限の照明にする。 ②新社屋では全ての照明をLEDを導入した。	この部分だけの目標は特に設定しない。	①使用していない部屋の消灯の徹底、必要な照度を確保しうる最小限の照明にする。 ②本社社屋では全ての照明をLEDに転換をした。
省資源・省エネルギー活動の推進など（冷暖房など）	①クールビズ・ウォームビズを実施し、省エネに努める。 ②新社屋では省エネ型設備を導入した。	①夏のエアコンの設定温度は28度目標 ②冬のエアコンの温度設定は20度目標	①クールビズ・ウォームビズを実施し、省エネに努める。 ②本社社屋では省エネ型設備を導入した
廃棄物の抑制、リサイクルの促進	①分別回収を徹底し、紙のリサイクルを図る。 ②文具の選定にあたり、リサイクル品の使用を心がける。	この部分だけの目標は特に設定しない。	①分別回収を徹底し、紙のリサイクルを図る。 ②文具の選定にあたり、リサイクル品の使用を心がける。
従業員への環境教育の促進	①ライン管理職の会議等で当社の取り組みを報告する。	この部分だけの目標は特に設定しない。	①ライン管理職の会議等で当社の取り組みを報告する。 全社員に対しては、ポータルサイトの掲示板等で、取り組みを報告している。

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 2 年度目（令和 5 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

中部電力のCO ₂ フリー電力を令和4年10月から導入したため、令和5年度は年間通じてCO ₂ 排出量の大幅な削減を実施できた。
--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

使用していない部屋の消灯の徹底、必要な照度を確保しうる最小限の照明にする。
